



市長と

車座トーク

第41回 桜丘学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）10月20日（金）

19:30～20:40

開催場所 桜丘公民館

参加者数 12人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・桜丘学区では、とんどをやってきている。福山城築城400年を迎えるにあたって、城と密接な関わりのあるとんどが、かつてのように練り歩きできるようになればいい。とんどと二上がり踊りを福山の文化として継承していくためには、福山全体で、市の政策としてやっていくべきではないか。
- ・東保育所が来年3月に閉所となるが、我々としては、なんとか利活用したい。東保育所と地域とのつながり（関わり）が、今後、こども園ができて、どのようになっていくか気になる。
- ・自治会活動は市のきめ細かな市民サービスの実施に有意義なものであるが、今の活動の延長線で考えると、無理があると思う。活動内容を厳選し、全員対象で費用負担なしでの活動を支援する仕組みづくりをして欲しい。行政、地域社会、個人の責務の区別を整理して、良い施策をして欲しい。
- ・10年前と比べて世帯数が半減し、高齢化が進んでいる。役員を決めても、名前だけになってしまい、自治会長がほとんどの役割をしないといけなくなり、活動が難しい。高齢化の中、認知症で深夜に出歩くような方もおられる。深夜に見廻るわけにいかないのです、困っている。

- ・高美台自治会では、三世代交流を促す「高美台茶屋サロン」を行っている。先日、地域一丸部門で学校元気大賞を受賞した。この取組は、自治会員や子どもたちがお茶やお菓子を囲み、おしゃべり、遊び、宿題などを通して交流を深めるもの。私も仕事の都合で時間が取れないときに子どもを茶屋でみてもらい、安心して仕事をすることができた。また、自治会員の方から子どもの様子を教えてもらえたり、子どもからも「今日おばちゃんに怒られた」などと聞いたりして、自治会員の方々との関係が深まり、自治会の活動自体も活発になった。同様の取組が広がれば、子を持つ世代が県外などからも集まるのではないかと思う。市としてこのような取組への支援の強化を検討していただけないか。
- ・桜丘学区では地域の高齢者の方へのおこまり相談、手作り弁当の配布など、一人暮らしの方を中心に、相互扶助に努めているが、市の助成などがあるのか、分からない。教えていただきたい。
- ・近年、市としてのまちづくりパスポート（まちパス）事業を見かけなくなった。代わりに、地域が頑張っており、小学生と地域との交流は多くなっている。ただ、小学生以外の年齢層の参加が少なくなっているため、市のまちパス事業も復活していただけないか。市と地域との関わりが遠のく中、経済的な支援も含め、市としてどのような援助があるのかお伺いしたい。
- ・少子化対策についてお願いします。町内で活動をしていても、昔のことを思うと子どもが減っている。給食費など、ある程度手助けをしてあげると、親が楽になって子どもが増えるのではないか。子どもが減れば、全てが縮小していき、税収が減ってしまう。予算を教育費の方に重点的に配分することを考えてもらいたい。高齢化は仕方ないが、若い人が増えれば、高齢化も多少隠れるだろう。少子化対策に重点的に取り組まないと取り返しがつかなくなってしまう。
- ・昨年6月23日の集中豪雨において、奈良津町内では8件の土砂崩れが発生した。発生後速やかに、まちづくり推進委員会と奈良津町自治会とが学区自治会などに呼びかけて復旧作業チームを立ち上げ、ボランティアの派遣を受けるなどして2軒の土砂撤去に取り組んだ。土砂撤去後には、農林整備課、道路整備課に処理を行って頂いた。現在も小規模災害復旧工事の最中だが、その現場を見ると、コンクリート壁の上から土砂崩れが起きないかと不安だ。ブルーシートが残ったままになっている。
- ・奈良津町は山に囲まれているため、イノシシの被害が他自治会より多い。自治会内には4か所に箱罠が設置されており、また今後2か所の設置予定がある。しかし、最近ではイノシシも賢くなり、箱罠の効果が出ていない。屋敷内に入って困る方には、柵の設置を勧めているが、お金がかかるし、飛び越えたりすり抜けたりをする。自治会からお金は出すわけにいかず困っている。田畑の柵に対しては多少の援助があるが、一般家庭の柵への補助拡大にも努めて頂くようお願いする。
- ・南陽台自治会ができた当時、道の並木として楠の木を10本ほど植えたのだが、この並木が太り、舗装を持ち上げて、道が段になり、老人・子どもには非常に危険。なんとかしていただければと思う。
- ・福山北消防署前の交差点北西部の歩道の幅が狭く、電柱もあって、信号待ちをするときに不便を感じている。また、福山北消防署から南に向けて道を渡ると、歩道がないので、コンビニの敷地を歩いて歩かないといけない。私有地を勝手に出入りすることがどうなのか、一つお考えいただきたい。
- ・昨年6月の集中豪雨の際、市との連携に時間を要した。何かあった時には、まず地元が状況を見て、市との連携を取るようになってきているが、防災と災害に関しては、市の色々な部署が関わっていてよく分からない。避難所の運営の仕方や、地元が準備することなど、規定事項があれば知らせてもらいたい。もしかしたら自治会役員は理解をしているかもしれないが、防災組織は全住民に関わる話なので、住民全員に向けて周知してもらいたい。避難所に行くということは知っているが、避難所に行った後

のことがわからない。市の担当者に来てもらえるのであれば来て欲しい。

- ・福山市の市長として活躍されているが、普段はどのような活動または仕事をしているのか。
- ・私たちは、体を動かすことが好きで、地域のフットベースボールに所属している。皆で体を動かす行事がたくさんある福山になって欲しいが、福山市を良くするためにどのような活動をしているのか。
- ・ばら公園をはじめ、ばらが咲いているところが至る所にある福山が好き。市長は福山のどのようなところが好きか。また、市長は普段どんなことを心がけているか。

<市長のまとめ>

- ・文化や歴史を大切にすることについては、関連文化財群というくくりで進めている。福山城築城を喜ぶ祭りであったとんどを、築城400周年事業のメイン事業として復活できないかという検討を始めた。それから、二上がり踊りも総踊りを天守閣前広場でやってもいいのではないかと思っている。二つの祭りを市民共有の祭りに拡大していきたい。
- ・移転した後の保育所の活用については、地域が総意として何かの目的のために使いたいという強い思いがあればそれも考えていきたい。一度、担当の者と学区とで、地域の考えを確認したいと思う。
- ・自治会活動については、これまで協働のまちづくりという取組をしてきた。人口減少、高齢化、ライフスタイルの変化によって地域活動への参加が減る中、今後の自治会活動に関する検討に入った。押しつけられた活動ではなく、やりたいことをできる活動にすれば、自治会活動の担い手も増えるのでは、と考えている。皆さんの声を聞きながら、是非地域の活力を取り戻したい。
- ・一人暮らしの方には、民生委員が見守りをしておられると思う。それでも心配な方については、民生委員と行政とで連絡を取り合って、事故に繋がらないよう、未然にどんな活動ができるか考えてみる。
- ・高美台自治会の取組には、私たちも注目している。高美台自治会への加入率は100%であり、是非モデルにして勉強したい。やはり、三世代が一緒になって触れ合う場を作っていることが大きいと思う。祖父母の世代と孫の世代とが仲良くなると、子どもたちが地域に目を向けるようになる。若い親世代も子どもに引っ張られて地域の取組を深めようとする。これからの交流は三世代というのがキーワード。また、サロンは放課後児童クラブの役割も担っていることになる。市では小学6年生までの放課後児童クラブを実現しようとしているのだが、安全管理をする人や場所を探すのが大変。自治会のサロンがその役割を担っていただけることは、ありがたい。支援として、何ができるかも考えたい。
- ・相互扶助に対して、どのような助成があるのかということは、まとまったものがあるので、担当から学区にお届けする。ぜひ見ていただきたい。
- ・まちパスは、地域の大人や子どもが地域活動に参加するためのきっかけになっている事業。更に多くの事業をまちパスの対象にしないといけないし、今までと違った地域活動を考えてもいいと思う。まちパス事業でもらうスタンプを引換えできる物に変えるなど、まちパス事業の魅力を高めていかないといけない。38事業、1,500人の参加をいただいているが、もっと多くの人に活用して欲しい。
- ・少子化について強い懸念を頂いた。共働きが増える時代の流れにあって、子育ては家族だけが担うのではなく、地域、行政、国が担う時代になっていると思う。子育て施策が大きく変わる中で、県と市との役割が決まり、市の支援制度が整理をされ、子育て環境が充実していく。子育てが出来るようになれば出生率が増え、高齢者を支える税収が増え、医療や福祉や介護、地域のインフラ整備を充実させる余裕ができていくかもしれない。そういう良い循環を作ることが人口減少社会の基本的な考え方。

一定の時間をかけて望ましい形を作りながら、少子高齢社会を乗り切る。子育て世代に知恵や支援を差し伸べていかなければいけない、という考え方には賛成だ。

- ・復旧工事中の斜面の上から土砂崩れがないかというご心配については、専門家が行っているのでも、上を見ていないということはないと思うが、担当に伝えておく。ブルーシートについても伝える。
- ・イノシシが民家に直接入って来るとのことだが、今までは民家に入るのを防ぐネットは助成対象ではなかった。これは考えてみたい。また、広域的な対応も考える必要があるかもしれない。
- ・南陽台の入り口の段差のことについては、現場を確認させてください。
- ・福山北消防署の前の交差点については、まず、現場を確認させてもらいたい。交差点や歩道の改良については県の東部事務所が担当している。地元の方には、どういう形で交差点を改良するのかの説明が行われる予定になっているので、それを聞いて欲しい。もっとも、心配については、県に伝える。
- ・災害のイメージがよくわからない、市との連絡がつくか不安ということについては、学区の自主防災計画を作る中で、市の担当と議論しながらイメージして欲しい。どこに連絡すればいいのかも防災計画づくりの中で整理されていくことになっている。まずは自治会の中で意思疎通をしてもらいたい。役員の方が理解していないと、全住民への説明も、まさかの時の誘導もできないだろう。もしそれでも不明なことがあれば、危機管理防災課に連絡をしてもらえればかけつける。
- ・市長としての活動は、まず、行政について、色々な人からいただいた注文や意見に早く答えるために議論している。それと、行事に出かけて行って、参加して下さった方にお礼をしている。市役所の中や外の活動を通じて、市民の活動が仲良く活発に行われるように取組をしている。年4回は議会に出席し、地域の代表の市議会議員の皆さんから質問をいただき、市はどんなことをやるつもりか説明して、理解いただくということをしている。
- ・福山市をより良くするために、スポーツを通じて明るいまちづくりを、ということ聞いた。福山の活気は、これまでは産業の力で実現してきた。これからは、それに加えて、スポーツで市民が心を一つにする町、歴史文化を大切にす街を目指していきたい。
- ・福山の好きなどころについては、40年ぶりに福山に帰ってきた時、ばらがこんなに素晴らしいものかと改めて思い知らされた。これからはもっと違ったばらとの付合いを考えていきたい。その一つとして、2022年に、世界ばら会連合の地域大会という全世界のばらを愛する人が集まる会議を誘致した。ばらのまち福山を全国、全世界にアピールしたいと思う。
- ・市政を担うに当たって心がけている事は、福山を知ってもらうための努力をしながら、誇りに満ちた輝く都市にしたいということ。ばらのまちだということを東京・大阪の人は知らない。日本最大の製鉄所があることも、新幹線の駅から天守閣が一番近いお城があることも、日本で一頭しかいないボルネオゾウがいることも、日本で一番子沢山のシロテナガザルがいることも知られていない。市民も知らない。福山の自慢、財産をもっと市外に知ってもらう取組をすれば、関心をもってもらえると思う。

<地域からのあいさつ>

高美台のような三世代交流を如何に東保育所とセットにするか、地域で考え、有意義な活用の仕方したい。何もないとは言わせない、という文字が新幹線から降りると目に入る。鞆は知っているが、福山は知らないという人が多い。市長の話の中で、思いが通じる所が沢山あった。課題があると思うが、我々としても、市長の思いを実現していただけるように協力ができればと思っている。